

【15-A】山口連区 社会条件

【連区の概要】

山口連区は瀬戸市の南部に位置し、長久手市および豊田市に接する。市街地に近接しながら「海上の森」や「矢田川」などの自然環境や多くの史跡、文化財が残された地域である。主要道路としては国道155号が南北に通過している。鉄道は愛知環状鉄道が存在し、連区内には山口駅がある。

山口連区



【人口および世帯数】

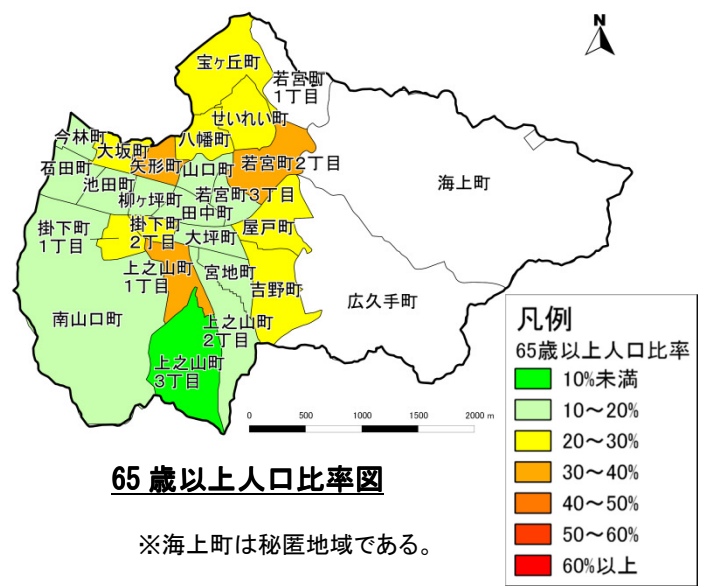
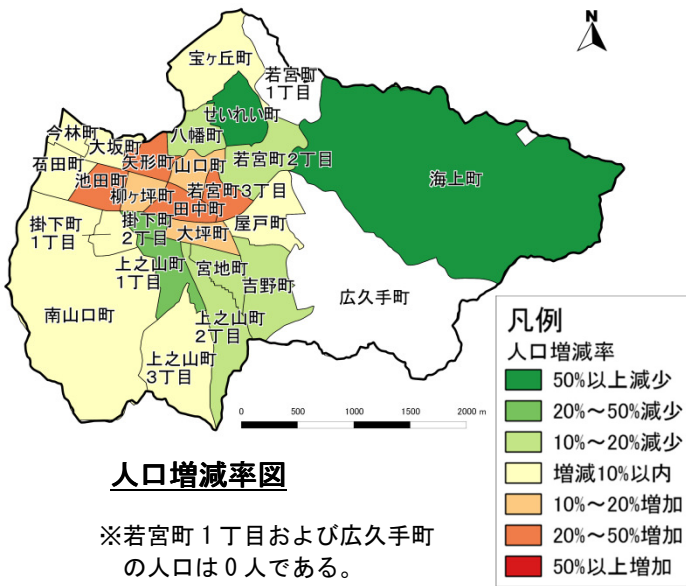
平成12年から平成22年までの10年間で、山口連区全体の人口は8,930人から9,369人と4.9%増加し、田中町などの矢田川北岸地域に形成された新興住宅地で人口増加が目立つ。また世帯数は3,488世帯から3,987世帯と14.3%増加している。

山口連区全体の65歳以上人口比率が18.2%と、瀬戸市全体の23.3%と比べて5.1%低く、人口減少傾向にある地域で65歳以上人口比率が比較的高い。

階層別人口構成

年代	人口	構成比
0～14歳	1,080人	11.7%
15～64歳	6,499人	70.1%
65歳以上	1,687人	18.2%
区分不明	103人	-
連区内人口	9,369人	

※平成22年国勢調査結果より



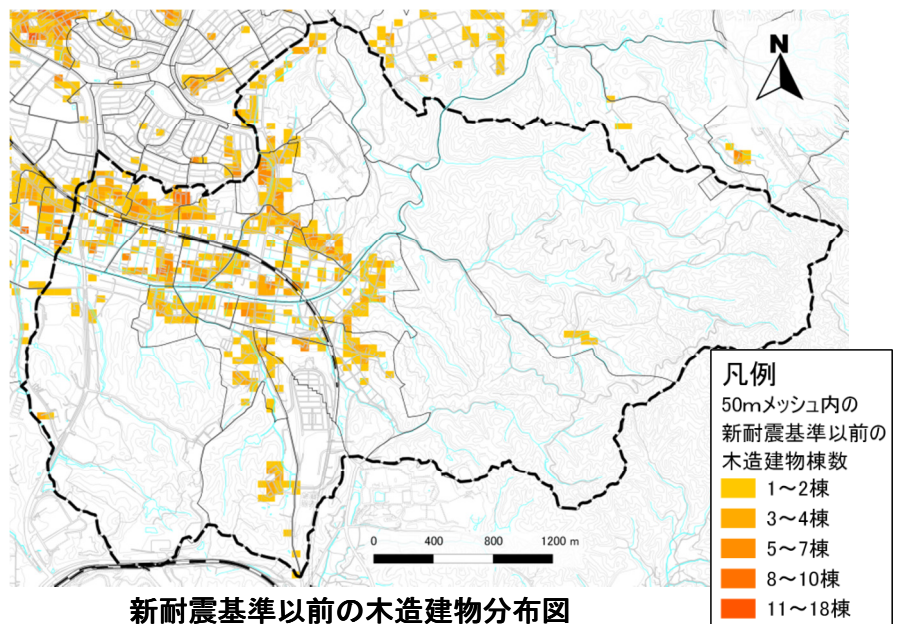
【建物】

山口連区の木造建物および非木造建物の割合は、木造建物65.7%、非木造建物34.3%である。新耐震基準以前（昭和55年以前）の木造建物は全建築物の31.2%であり、瀬戸市全体の34.3%に比べて低い。

木造・非木造構成

	建築年	棟数	構成比
木造	S35年以前	397棟	10.8%
	S36～55年	746棟	20.4%
	S56年以降	1,263棟	34.5%
	計	2,406棟	65.7%
非木造	S45年以前	376棟	10.3%
	S46～55年	150棟	4.1%
	S56年以降	731棟	20.0%
	計	1,257棟	34.3%
連区内棟数		3,663棟	100.0%

※平成23年度都市計画基礎調査
建物利用現況図をもとに集計

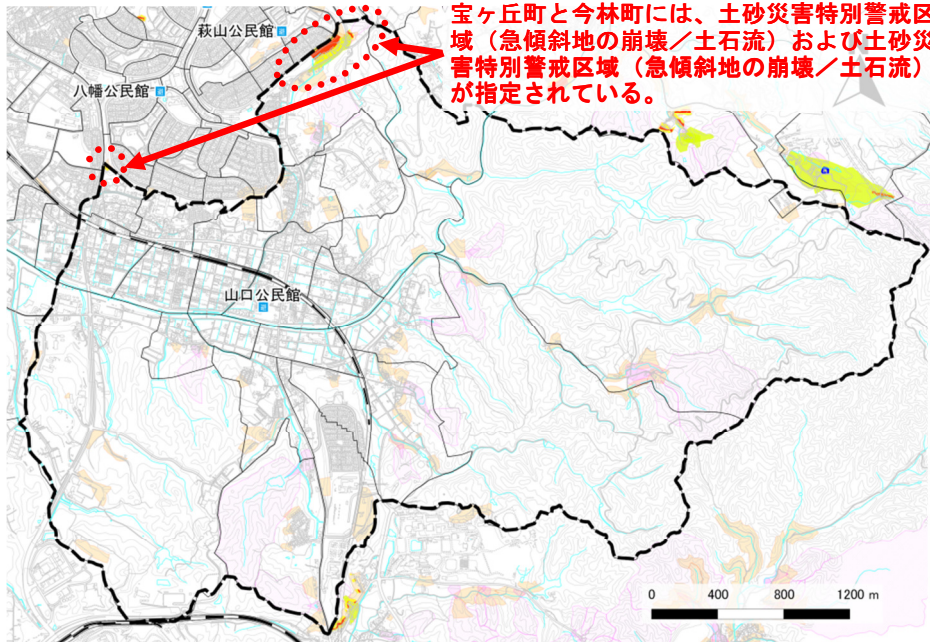


【15-B】山口連区 水害および土砂災害

- 連区北部に土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域が存在する。
- 連区中央部を除くほとんどの地域で風水害時の避難所までの距離が離れている。

【水害および土砂災害箇所】

山口連区では、浸水想定区域の設定はなく、近年大規模な水害は発生していない。また、宝ヶ丘町と今林町に土砂災害特別警戒区域（急傾斜地の崩壊／土石流）および土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊／土石流）に指定されている箇所がある。その他、広い範囲に土石流危険溪流、急傾斜地崩壊危険箇所が多数指定されている。



宝ヶ丘町と今林町には、土砂災害特別警戒区域（急傾斜地の崩壊／土石流）および土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊／土石流）が指定されている。

土砂災害警戒区域内にある建物棟数

急傾斜地の崩壊	24棟
特別警戒区域	11棟
警戒区域	13棟
土石流	27棟
特別警戒区域	0棟
警戒区域	27棟

凡例

- 風水害避難所
- 土砂災害情報
 - 急傾斜地の崩壊（特別警戒区域）
 - 土石流（特別警戒区域）
 - 急傾斜地の崩壊（警戒区域）
 - 土石流（警戒区域）
 - 土石流危険溪流
 - 土石流危険溪流による危険区域
 - 急傾斜地崩壊危険箇所
 - 地すべり危険箇所
 - 既往水害（東海豪雨）

水害・土砂災害危険度図

【風水害時の避難所および緊急避難場所】

山口連区では山口公民館が風水害時の避難所・緊急避難場所として指定されている。連区中央部（山口町、田中町、大坪町、掛下町2丁目、若宮町3丁目など）を除き、ほとんどの地域で避難所までの距離が700m以上離れている。風水害時の避難所が付近に存在しないことを地域住民に周知するとともに、早めの避難を促すなど、避難体制を整える必要がある。

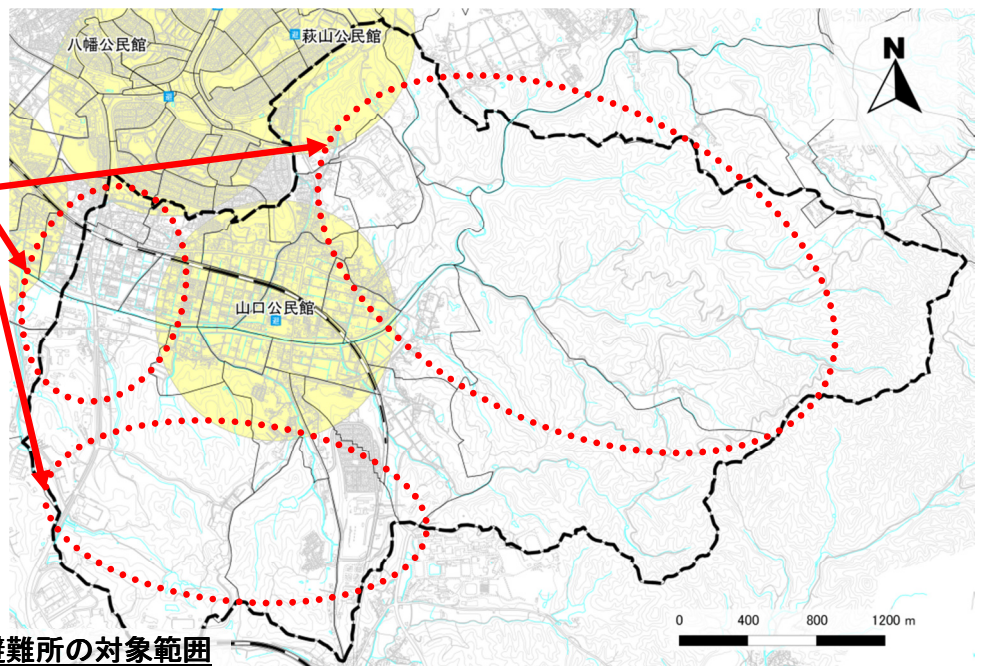
また、海上町の山間部集落については、道路閉塞について考慮に入れた避難体制を整える必要がある（広久手町の人口は0人〔平成22年国勢調査〕である）。

連区中央部を除くほとんどの地域で避難所までの距離が700m以上である。

風水害時の避難所・緊急避難場所一覧

緊急避難場所・避難所	収容定員(目安)		
	長期	初期	直後
山口公民館	70人	135人	220人
幡山公民館【菱野連区】	40人	80人	130人
萩山公民館【菱野団地】	35人	70人	115人
八幡公民館【菱野団地】	40人	80人	130人

※地域防災計画より



凡例

- 避難所・緊急避難場所（風水害）
- 緊急避難場所 兼 避難所
- 避難所等からの対象範囲（同心円）
- 避難所から700mの範囲

風水害時の避難所・緊急避難所の対象範囲

【15-C】山口連区 地震災害

■矢田川沿いに液状化の可能性が高い地域がある。

■連区南西部から東部にかけての広い地域で、地震時の避難所までの距離が離れている。

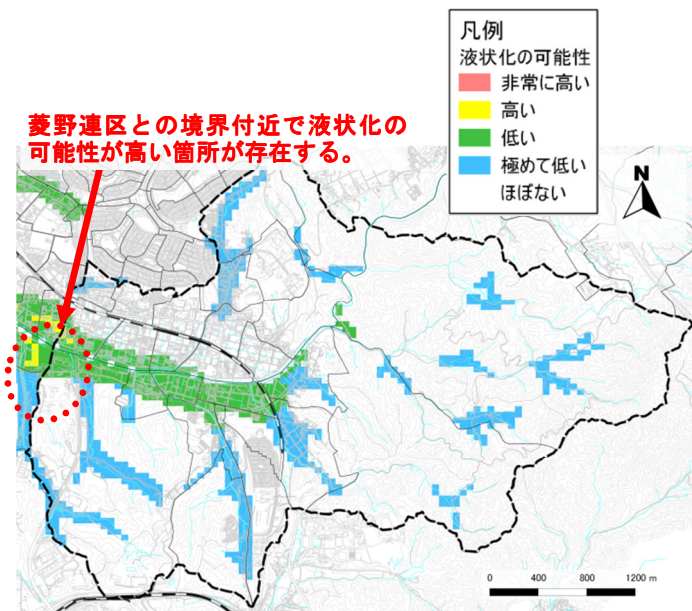
【建物被害および液状化】

(1) 建物被害について

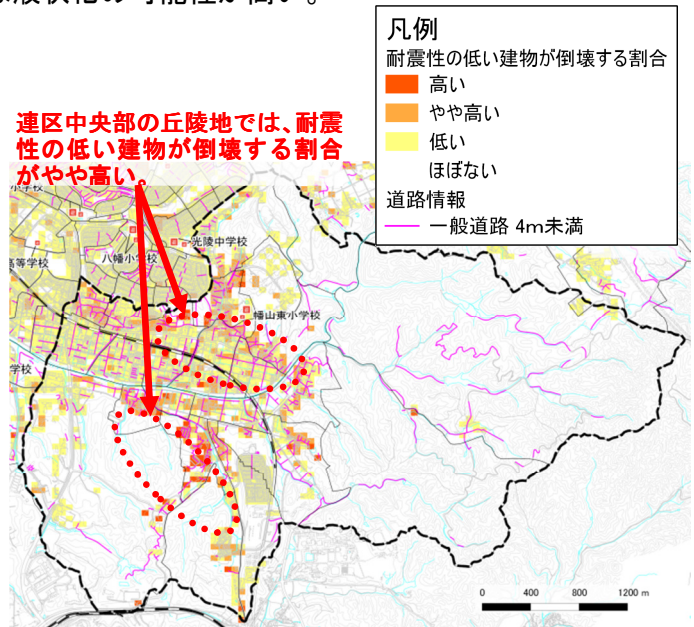
連区全体で耐震性の低い建物が倒壊する割合が低いが、連区中央部の丘陵地（矢形町、八幡町、若宮町2丁目、掛下町1～2丁目、上之山町1丁目など）では、耐震性の低い建物が倒壊する割合がやや高い傾向がある。

(2) 液状化について

液状化の可能性のある地域は、矢田川とその支流によって形成された沖積地形（谷底平野、扇状地）に広く分布している。このうち、連区西部の石田町では液状化の可能性が高い。



液状化危険度図



建物(木造および非木造)倒壊危険度図

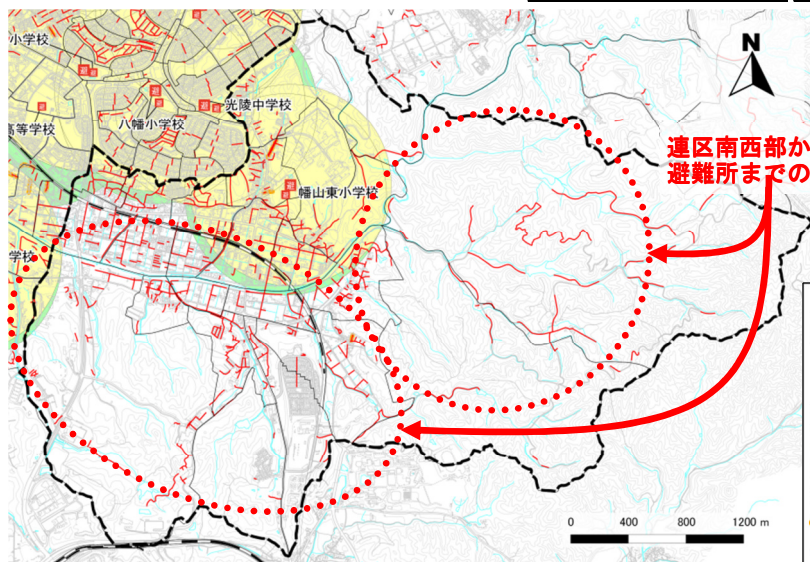
【地震時の避難所および緊急避難場所】

山口連区では、地震時の避難所および緊急避難場所として幡山東小学校が指定されている。連区南西部から東部までの広い範囲（石田町、池田町、柳ヶ坪町、掛下町1～2丁目、南山口町、上之山1丁目～3丁目、宮地町、吉野町、広久手町、海上町、若宮町1丁目）にて、地震時の避難所もしくは緊急避難場所までの距離が700m以上離れている。これらの地域では、近くに避難所が存在しないことを地域住民に周知する必要がある。

地震時の避難所・緊急避難場所一覧

緊急避難場所	避難所	収容定員(目安)		
		長期	初期	直後
幡山東小学校(運動場)	幡山東小学校	95人	190人	305人
幡山中学校(運動場) 【菱野連区】	幡山中学校 【菱野連区】	275人	550人	890人
光陵中学校(運動場) 【菱野団地】	光陵中学校 【菱野団地】	290人	580人	945人

※地域防災計画より



地震時の避難所・緊急避難場所の対象範囲図